

第9回東日本大震災連絡会議 4月11日(金) 15:00～

参加団体：県図書、多賀城市、Toppan、心の相談室、メディアテーク、事務局

テーマ：前回のおさらい/連絡会議内容検討/次回からのプラン

連絡会議を通して、ボトムアップなアーカイブの手法/作法を決め
HPに掲載(Let's Archiving)。編集方法などのワークショップも折り込み
総務省に提案

形式：県図書館&各自治体連携と更に連携

会議は3地域ぐらいで持ち回り開催も有り(メディアテークのみではなく)
(ここまでは前回のおさらい)

今後の会議内容の概要を定義する。

「アーカイブを活用した地域資源の創出・発信する協働体(帯)」
観光、歴史、文化、教育、防災、安心などの内容をカバー(オールマイティー)
ビジネスチャンス-裾野を広げる
実働部隊/地域での担い手を育て継続させる・継続させる仕組みを作る
アーカイブの専門領域を(担当)作る

支援金をどのような活動に使えるか事業内容を見直す。中間支援としてどこまで可能なのか?現場では何が必要なのか?何が問題なのか?

例) 県図書：聞き取り活動は行わないので、著作権問題について議論必要
多賀城市：編集後、ネットへのアップに向けての整理、人手がまだ足りてない

前回に引き続き洗い出し：*青色の項目は今回追加分

◎ **各団体のアーカイブの目的 何を誰に？**（自治体ごとに目的の整理をする）

-アーカイブの継続の仕方（実働部隊の確保など）育成など

（今後どう運営継続して行くか？連携組織のあり方を問う

-アーカイブとは何か、意識の見直しと発信する必要性

（どのように発信していくのか？）

-震災当時だけでなく。復興の「いま」「未来」を伝えるもの。

-震災体験者/地元の方との関わり方は？

-何を収集するのか？どういう情報？復興過程？震災当時？

-誰に向けて？外、内？

-将来像は？ビジョンの発信へ、メディアの露出の関係

◎ **連携組織のあり方、どう運営するのか？**

◎ **定点カメラの撮り方**

◎ **インタビューの取り方・作法**（専門的な内容をどう聞き取るか？）

◎ **映像編集の仕方**

◎ **ヒアリングの要約の作り方**（方言、その土地の呼び方）

◎ **タグ付けと経費の問題**（自治体でのメタのタグ付け整理が大変、一枚2、3分かかる）

ダブった写真の処理をどうするか？など→勉強会で相談

◎ **何をどこまで公開するか？**（例えば：2次利用は??）

◎ **利活用についてとそのプロセス**

-見せ方・ビジュアルライゼーション、インターフェイス（利活用）

◎ **著作権**（専門家レクチャー必要）

◎ **API連携、どこまでどういったものを連携させるか？**

-現物保存についてどうするか？ 保存場所をどうするか？

その他、今回あがった内容：

*理解を深める発動（シンポジウム開催、現場との会話など）

*地域の歴史保存の意味など

*交渉術

事業化したら、連絡会議の物理的な活動場所をどうするか？事務局の設置など
検討必要。

次回から Step 0～5 の内容に沿って連絡会議で内容を深めていく。

Step0 洗い出しや上記にあげた内容の確認

Step1 資料・記録の調査・収集

Step2 資料・記録のデジタルデータ化

Step3 メタデータ作成

Step4 コンテンツ公開・保存・利活用

Step5 システムの構築・運用

*随時、参加団体からの要望により。内容の変更有り。

次回 5月9日(金) 15:00～ せんだいメディアテーク

議題：STEP1 資料・記録調査・収集から

「集める・探す写真と紙」

県図書(紙)、20世紀アーカイブ(写真)、多賀城市(写真など)

その他の団体も飛び入り歓迎